

第6学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年5月30日（火）第5校時

13:25～14:10

対 象 第6学年2組 31名

学校名 墨田区立第一寺島小学校

会 場 4階 6年2組教室

令和7年度 研究主題 学びを深める児童の育成 ～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～

1 単元名 お気に入りの本を読み、サムネイルを作って、本の魅力を友達に伝えよう

教材名 『帰り道』（光村図書 6年）

並行読書材『小学五年生』（重松 清 作）から『雨やどり』『プラネタリウム』『正』
『なまえつけてよ』（蜂飼 耳 作）

2 単元の目標

- 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

〔知識及び技能〕（1）カ

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

〔知識及び技能〕（1）ク

- 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕C（1）イ

- 進んで登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことについて考えを伝え合おうとすることができる。

〔学びに向かう力・人間性等〕

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
① 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（1）カ ② 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（1）ク	① 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。C（1）イ	① 進んで登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことについて考えを伝え合おうとしている。

4 児童の実態

- ・5年生で学習した「銀色の裏地」の学習では、人物相関図を活用し、人物相互の関係や心情などについて読み取る活動を行った。相関図を書く際、描写を基に捉えたり、考えを広げ深めたりすることに課題があった。
- ・5年生で学習した物語文「たずねびと」「アンパンマンの勇気」「大造じいさんとガン」等では全文シートを使い、気になるところを中心に交流活動を繰り返し行ってきた。しかし、仲が良い特定の友達による交流になってしまい、自分と異なる視点で考えを深めていくことに課題があった。
- ・言語活動では、人物紹介カードやおすすめの本紹介カードなど、交流を活かした学習のまとめを行ってきた。タブレットを活用したリーフレットやポスターの作成には慣れているが、個人の作業に時間が必要となってしまうという課題があった。子供たちが成果物を作成するために、交流が必然となるような学習展開の工夫が必要である。

5 教材について

本教材の特徴は、学校からの「帰り道」の道程を二人の荘園がそれぞれの視点で語っていることである。「1」は「律」、「2」は「周也」の一人称視点で語られている。「1」と「2」を読み比べながら、それぞれの視点で二人の少年の心情を交互に把握していくこととなる。子供たちは、二人の視点で読み進めていくことで、互いの視点では描かれなかった物語を補い、頭の中で一つの物語をつくりあげることができる。また、登場人物の「律」と「周也」は、性格や境遇が対称的に描かれており、登場人物の人物を基に相互関係を捉えるのに向いている物語である。

並行読書教材の作品は、『小学五年生』（重松清作）の短編集の中から、選んだ作品である。作品選定の際は、本単元で育てたい資質・能力に関連する「登場人物の相互関係や心情の変化が描かれている作品」を中心に選んだ。留意した点は、重松清の作品には、家庭環境を題材にした作品も多いので、学級の児童と直接的に家庭環境が重ならないよう、作品選定の際には配慮をした。また、本単元では、交流活動が充実するように、学級の全員が同じ作品を読むこととした。そのため、読むことが苦手な児童でも読めるように、作品の長さや平易な文章で描かれているかどうかということにも考えた。そして、並行読書教材から自分が気に入った作品を選ぶことで、本の魅力を友達に伝える意欲を高めたと思った。

6 研究主題との関連

（1）目指す児童像

低学年	中学年	高学年
言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする子

(2) 研究主題に迫るための手だて

①言語活動の工夫

ア 言語活動

同年代の登場人物が一人称で描かれている物語を読み、本の魅力をサムネイルで紹介する。

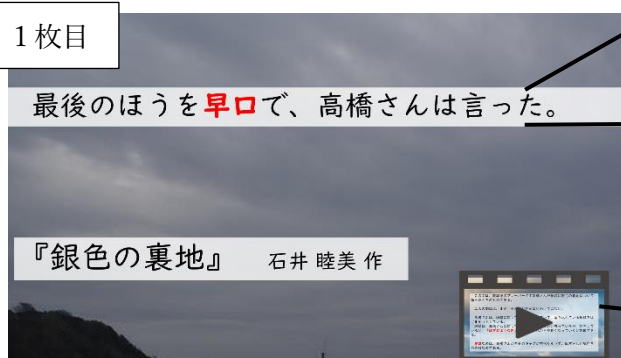
イ 言語活動の特徴

本単元では、サムネイルを作成して本の魅力を推薦するという言語活動を行うために、交流を通して自分なりに描写を捉える学習計画を設定した。サムネイル作成の目的は、気に入った本の魅力を友達に伝えるためとした。本の魅力を伝えるために、作品の中で印象に残った文や言葉を「心に響く一文」として、サムネイルの表紙に表れるようにした。読者は、この一文に興味を持ち、中身を見てみると、印象に残った言葉や文を選んだ理由がまとめられており、この作品を読みたいと思わせる仕掛けとなっている。同じ作品を読んだ人同士でも、選ぶキャチコピーに違いがあり、描写の捉え方を比較できると考えた。

本の魅力を伝えるために、複数の作品を読み比べることで、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる、「C 読むこと イ」につながると考えた。

ウ 言語活動モデル

1 枚目



【心に響く一文】

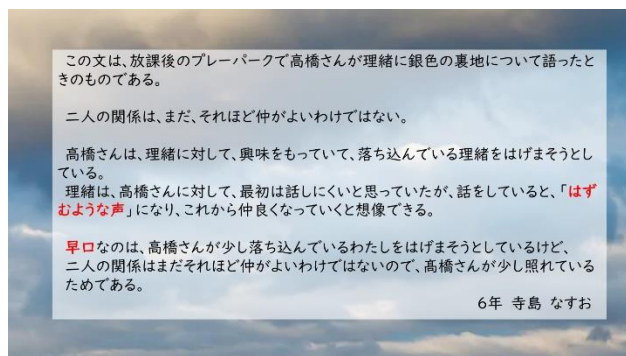
自分が心に響いた言葉や文を選ぶ。

【背景】

本の魅力を紹介するために、背景を工夫してもよい。

【2枚目の入り口】

2枚目を小さく貼る。クリックしたら大きく見ることができるようにする。



【一文を選んだ理由】

自分が心に響いた言葉や文を選んだ理由を、登場人物の相互関係や心情などの描写を基に説明する。複数の描写を繋げて、自分の読み深めた作品の魅力をまとめる。

二人の関係性やお互いをどう思っているのか等を書いたり、心に響く一文を解説したりする。

〔C 読むこと イ〕

2枚目（1枚目の右下の再生ボタンを押すと開く）

② 交流活動の工夫

ア 相手と目的を意識した交流活動の設定

本単元では、心に響いた言葉や一文を選び、その理由を説明することで、本の魅力を伝える活動を設定した。子供たちは選んだ言葉や文が、魅力を説明する上で十分な言葉や文になっているか」や、選んだ言葉や文の理由を十分に説明できるか」という目的をもって、友達と交流する場面を設定した。また、本の魅力を伝える相手は、5年生であり、作品を通読していない設定である。5年生が朝読書の時間に、6年生が作成したサムネイルを見て自分が読みたい作品を選ぶ設定とした。これにより、心に響いた一文でいかに読者の興味を惹きつけられるか、また、心に響いた一文の説明で読者に作品を手にとってもらうという相手意識・目的意識がとても重要になると考えた。

イ 交流の進め方をつかむためのモデル動画の作成

自分が選んだ言葉や文について、友達と交流することによって選んだ理由をより明確にすることができると考えた。今までの実践で、子供たちが思いや考えをもっているが、うまく交流できないということがあった。そのため、交流のモデル動画を作成し、話し合いの目的を明確にしたり、話し合いの方法を具体的に提示したりした。モデル動画を作成するために留意したことは以下の点である。

- ・子供たちがどのような話し合いをすれば、当該単元で育てたい資質・能力を発揮した話し合いになるのか、指導事項と関連させて考えた。
- ・どのような手順で話し合いを進めるのか、持ち物や席の座り方、返答の仕方などを具体的に提示した。
- ・話し合っているときの、全文シートの使い方、線の引き方など、複数の叙述を比較したり、複数の作品を参考にしたりして考えを明確にする手順を示した。

ウ 主体的に話し合いに参加するために

児童が話し合う相手は、給食のグループや隣の席の子供というような機械的に決められた相手ではなく、一人一人が自ら目的をもって決めることとした。話し合いの場面では、次のような手だてで相手を自分で選べるようにした。教科書教材の場合は、全文が掲載されてあるものを黒板に掲示し、子供たち一人一人が、気になるところや紹介の根拠となる言葉や文に付箋を貼った。これにより、本文と付箋を頼りに自分が話し合いたい相手を探せるようにした。また、並行読書材の場合は、並行読書マトリクスを用いて、自分の考えをはっきりさせたかったり、自分の考えを試したかったりするなどの目的をもって、自分で相手を選んで主体的に交流ができるようにした。

7 単元の指導計画と評価計画（6時間扱い）

次	時	・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準
第0次	1	学習の計画を立て、見通しをもとう。 ・本の魅力を伝えるために、交流を通してサムネイルを作ることを見通す。 ・学習計画を立てる。 ・読書をし、気に入った本を見付ける。	【知識・技能】 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 （発言・ノート）
第一次	2	「帰り道」 サムネイルを作るために心に響く一文を決める。 ・「帰り道」を読み、印象に残った表現を見付ける。 ・印象に残る言葉を探すポイントについて話し合う。 ・交流モデル動画を見て、交流の仕方をつかむ。 ・交流を通して考えを広げたり深めたりして、（印象に残った表現）を決める。	【知識・技能】 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（交流・ロイロノート）
	3	「帰り道」 サムネイルを作るために心に響く一文を選んだ理由を考えよう。 ・再度交流モデル動画を見て、さらに話したいことを友達と交流する。 ・一文を選んだ理由を、交流したことを基に、サムネイルとして作成する。	【思考・判断・表現力】 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（交流・ロイロノート）
第二次	4	「並行読書教材」 並行読書のサムネイルを作るために、心に響く一文を選ぼう。 ・選んだ本の中から印象に残った表現を複数探す。 ・交流モデル動画を見て、交流の仕方を確かめる。 ・マトリックス表を基に、交流する相手を決め、交流する。	【主体的に取り組む態度】 進んで登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことについて考えを伝え合おうとしている。
	5 本時	「並行読書教材」 心に響く一文を選んだ理由をサムネイルの2枚目に書こう。 ・再度交流モデル動画を見て、さらに話したいことを友達と交流をする。 選んだ理由を、交流したことを基に、サムネイルとして作成する。	
	6	「並行読書教材」 友達に本の魅力を紹介しよう。 ・作成したサムネイルを使って、本の魅力を紹介し合う。	

8 本時（全6時間中の第5時間目）

（1）本時の目標

サムネイルを作るために心に響く一文を選んだ理由を交流し、登場人物の相互関係や心情の変化について、描写を基に捉えることができる。

（2）本時の展開

時間	学習活動	・指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (5分)	1 単元のゴールを確認する。	・サムネイルのモデルと学習計画表を振り返り、単元のゴールを確認する。 ・全文シートやマトリックス表、交流活動で学習してきたことを確認する。 ・再度交流のモデル動画を見て、流れを確認する。	
	2 前時までの学習を振り返る。		
3 本時のめあてを確認する。			
心に響く一文を選んだ理由をサムネイルの2枚目に書こう。			
展開① (20分)	4 サムネイルを作るために、さらに話したいことを友達と交流する。	・全文シートの叙述を基に話し合わせるようにする。 ・複数の叙述を結び付けている児童を認めていく。 ・仲の良い児童同士の交流だけにならないように、並行読書マトリックスを基に交流するように促す。 ・話し合いが停滞しているグループには、教師が3人目のメンバーとして話し合いに加わり、一文を選んだ理由について、登場人物の相互関係や心情の変化と結び付けて考えられるように促す。 ・選んだ作品や一文を事前に把握しておき、停滞が見られそうな児童とその児童への手立てを想定しておく。	【思考・判断・表現力】 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 （交流・言語活動） 【A規準】 交流を通して、描写を基に、登場人物の相互関係や心情などについて、作品の特徴を捉えながら、複数の描写を結び付けて、捉えている。 【B規準】 交流を通して、描写を基に、登場人物の相互関係や心情などについて、複数の描写を基に捉えている。
	5 交流したことをもとに、キャッチコピーに選んだ理由をサムネイルとしてまとめる。	・本の魅力が伝わるような、キャッチコピー、またそれを選んだ理由を、交流を基にしてロイロノートで、サムネイルのスライドの2枚目に書き出すようにする。 ・なかなか理由を文章にできない児童に対しては、個別に友達と話し合ったことを想起させる。	【B基準に達しない児童への手立て】 教師が3人目のメンバーとして交流に加わり、描写を基に、登場人物の相互関係や心情などについて、関連する複数の叙述を捉える姿を目の前で例示する。
まとめ (5分)	6 本時の振り返りをする。	・本の魅力が伝わるようなサムネイルが作れたか確認する。	

(3) 研究の視点

- ・ 交流したことで自分の考えを広げたり深めたりできたか。
- ・ 交流したことを基に、サムネイルを作ることができていたか。

(4) 板書計画

並行読書マトリクス

みんなで考えた印象に残る言葉を探すポイント

- ・ 情景描写・・・登場人物の気持ちや風景で描かれている。
- ・ 登場人物の心情・・・共感できる。自分とは違う
- ・ 心情の変化・・・何か出来事がある、変化する様子。
- ・ 登場人物の人物・・・おもしろい。素敵。
- ・ 登場人物の関係・・・最初はけんかしてたけど・・・

○目的・・・五年生に本の魅力を伝える
○心に響く一文・・・本の中で印象に残った表現。

心に響く一文を選んだ理由をサムネイルの2枚目に書こう。

お気に入りの本を読み、サムネイルを作って、本の魅力を友達に伝えよう